

教育子午線

October
2006

Kyoiku-Shigosen



兵庫教育大学

vol.12

● 教育最前線

最近の青少年犯罪の背景に見る

「心の教育」の必要性



- キャンパス通信
- 地域貢献活動
- うれしの交差点

● 日々是研究

吉川芳則

● Watching ゼミ&講座

松浦正史・森山 潤ゼミ

10月14日と15日に兵庫教育大学が開催する「アジア教育シンポジウム」にベトナム・ホーチミン教育大学のトリウ副学長を招くことになり、この夏、勝野眞吾副学長とベトナムに渡りました。

合わせて、現地の健康教育関係者と共同研究について意見を交換するとともに、ホーチミン市内の小学校を見ることができました。

ベトナムは高度経済成長の真つただ中。大学などの高等教育の改革は1980年代後半のドイモイ（改革開放）後、いち早く始まりました。それまでの旧ソ連をモデルにした専門別大学を統合して総合大学化し、大学院を増強、国立大学のほか地方の省や民間が設立する公立大

学、私立大学を増やすなど、量的な拡充と質の向上が図られています。現在も「教育発展戦略2001～2010」を推進し、全ての教育機関を通して教育の充実に努めています。

教育関係者の悩みは教員の給与が極めて少ないこと。財政が豊かではないこの国では公務員一般に共通する問題ですが、教員は収入を増やすために時間外や夏期休暇期間に塾の講師を務めます。なんと、その塾は学校の校舎を使っており、言うならば公立学校が塾を営んでいるような格好です。

日本の小学校では英語教育が試行されつつありますが、ベトナムでも順次始まっています。しかし、特別の授業料を負担しなければ受けられません。ホーチミンの児童は原則として、昼食は帰宅して食べます。しかし、共働きの核家族や自宅で食事にありつけない児童のために午前11時と午後2時に給食が用意されます。給食費は1日当たり60～70円と決して安くはないだけあって、メニューはなかなかのもの。午前はご飯に野菜料理、魚か肉の料理、それにデザートも付きます。午後にはフオー（鶏肉入りスープと米の麺）が出ます。

でいるのには正直言つて驚きませんでした。

ベトナム人には親日家が多いといわれます。米国や中国、ロシアといった超大国の間で上手にバランスを取っているベトナム人から見ると、経済的な力は圧倒的に大きい日本も同じ立場の「兄弟」に思えるところがあるようです。ベトナム人は日本人に仲間意識を抱いています。日本人と同じように勤勉な努力家であり、信頼や和を重んじます。そんなベトナムの人たちと今後、パートナーシップの関係性をさらに強めていければと思います。

ドイモイは、国家が全てを支給するという社会主義の建前を捨てて、必要なモノやサービスをどうしたら確保できるか市場のメカニズムを使って工夫してみようという改革です。その考えが公立学校の在り方にも及ん



理事 宮崎秀紀

ドイモイ後のベトナムの教育事情

兵庫教育大学の動き

2006 6月→9月

6月

3日~24日

◎公開講座「地域理解のための地図作成の基礎技術」(全4回)

3日~7月15日

◎公開講座「簡単ロボット製作で学ぶコンピュータの仕組みと制御」(全7回)

19日

◎附属中学校写生大会

21日~23日

◎附属小学校5年生林間学校



附属小学校6年生臨海合宿

7月

1日~15日

◎公開講座「歌の伴奏をしてみよう(前期)」(全3回)

8日

◎附属幼稚園「ほしぞらカーニバル」

15日~8月13日

◎公開講座「彫刻をつくる」(Aコース全8回、Bコース全10回)

19日

◎附属小学校第1学期終業式

20日

◎附属幼稚園、中学校第1学期終業式

◎加東市国際交流サロン

20日~22日

◎附属小学校6年生臨海合宿

23日

◎オープンキャンパス

8月

4日~5日

◎公開講座「理科に強い教員になろう(その1)」(全2回)

19日~20日

◎大学院学校教育研究科(修士課程)前期選抜試験



大学院修士課程前期選抜試験



公開講座「ピアノを弾こう!」

9月

1日

◎附属幼稚園、小学校、中学校第2学期始業式

1日~2日

◎附属小学校4年生自然学校

7日~8日

◎附属幼稚園「わくわくキャンプ」



附属幼稚園「わくわくキャンプ」

9日~10月21日

◎公開講座「ピアノを弾こう!」(全5回)

16日

◎附属中学校体育祭



附属中学校体育祭

30日

◎附属小学校「うれしのカーニバル」

30日~12月9日

◎公開講座「発達に気になる子どもの家庭療育の方法」(全9回)

はじめまして



にわ ようこ
丹羽洋子

(臨床・健康教育学系教授)

高知大学を退職し、8月1日付で学校心理学コースに着任しました。専門は発達心理学・学校臨床です。研究テーマは「動機づけ(欲求・意欲・感情)」で、児童生徒の感情の発達とその障害に関する研究をしています。前任校では教育相談員やスクールカウンセラーとして臨床実践に携わってきました。今後は、学校・学級や家庭といった関係性の中で個を育てるという、教員が日常場面で実践できる学校カウンセリングについてさらに追究していきたいと考えています。

16 15 14 12 11 10 09 08 04

兵庫教育大学からのお知らせ

うれしの交差点

「特別支援教育推進協定」を締結
〜軽度発達障害児の教育支援に大学院生を派遣

地域貢献活動

キャンパス通信

卒業生からの手紙

Watching 7/11&講座
松浦正史 森山潤、セミ(自然生活教育学系)

教育現場からの質問
教員の著書紹介

日々の研究
多面的な人物評価に基づく採用
―教員採用試験の改善状況の調査から―
吉川芳則(社会言語教育学系教授)

教育最前線
最近の青少年犯罪の背景に見る
「心の教育」の必要性

教育子午線

Kyoiku-Shigosen

October, 2006



◎文=渡邊満(基礎教育学系教授)

最近の青少年犯罪の背景に見る「心の教育」の必要性

数字からは見えない 青少年犯罪の実態

子どもたちによる凶悪な事件が続くと、新聞や雑誌には、青少年犯罪の「急増」「凶悪化」といった見出しが飛び交います。実際はどうなのでしょう。

『平成18年度版青少年白書』に掲載の【グラフ1】によると、刑法犯少年の数は最近の10年間で平成10年と15年をピークに一進一退を繰り返していますが、16年からは緩やかな減少傾向にあります。【グラフ2】を見ても16年以降、凶悪犯(殺人、強盗、放火、強姦)、粗暴犯(暴行、傷害、脅迫、恐喝、凶器準備集合)ともに検挙人員は減少傾向にあります。【グラフ3】が示す

ように最も多い刑法犯は窃盗です。また、その大部分を初犯が占めているといえます。

これらからも明らかのように、青少年犯罪は楽観できる状況ではありませんが、近年で顕著に増えたり凶悪化したりしているとはいえません。では、なぜ世間には急増、凶悪化している印象を持たれるのでしょうか。問題は単純に件数の増加ではなく、事件の背景に潜む犯罪や非行の質の変化にあると思われます。

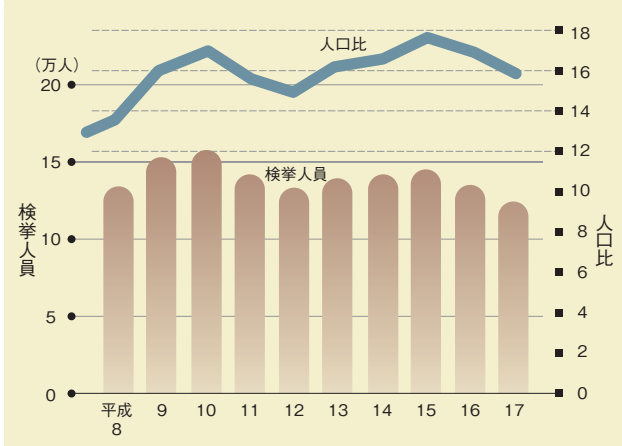
何が鬱積しているのか 心の闇を照らし出す

最近の青少年犯罪の目立つ変化として、①残酷な手段でいきなり人を殺す事件が相次いでい

る②攻撃性の向かう対象が全く面識のない人であったり、逆に一番身近な親や友人であったりと、動機が不可解である③予想

もつかない子(普通の子)が突然爆発した(キレる)と思えないようなケースが増え、非行傾向のある子どもといわゆる普通の子どもの境界が見えにくくなっている。このようなことから、現在は親も教員も凶悪な事件がよそ事ではなく、身近な問題として発生しかねないという不安を感じているのではないのでしょうか。

一体、子どもたちの内面で何が起きているのでしょうか。おそらく、社会と自分のつながりの不透明さ、自分を感じるよりどころであるはずの家族や友人と



ここでいう検挙人員とは、交通業過を除く刑法犯で検挙した14～19歳の少年をいう。人口比とは、14～19歳の少年人口1,000人当たりの検挙人員をいう。

刑法犯少年の検挙人員、人口比の推移

警察庁調べ

グラフ1

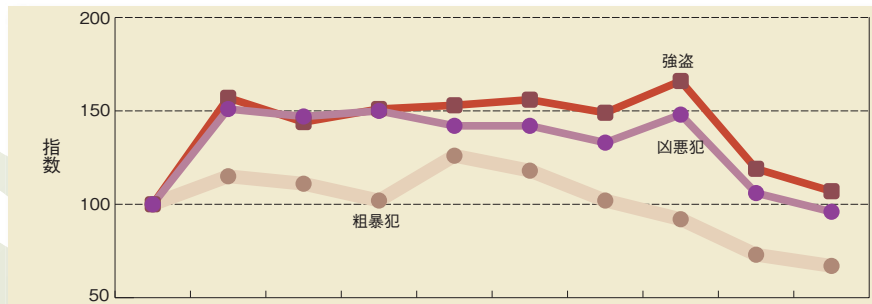
近年、青少年が引き起こす凶悪な事件が頻発し、社会を震撼させています。その被害者は親やきょうだい、友人といった身近な人から、何の縁もない見知らぬ人まで広範囲に及びます。今、青少年の心に一体何が起きているのでしょうか。青少年の引き起こす諸問題の背景を探りながら、学校の「心の教育」の課題について考えてみましょう。



グラフ2

凶悪犯少年および粗暴犯少年の検挙人員の推移

()内は指数 警察庁調べ



区分	年	平成8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
凶 悪 犯	人数	1,496	2,263	2,197	2,237	2,120	2,127	1,986	2,212	1,584	1,441
	(指数)	(100)	(151)	(147)	(150)	(142)	(142)	(133)	(148)	(106)	(96)
強 盗	人数	1,068	1,675	1,538	1,611	1,638	1,670	1,586	1,771	1,273	1,146
	(指数)	(100)	(157)	(144)	(151)	(153)	(156)	(149)	(166)	(119)	(107)
粗 暴 犯	人数	15,568	17,981	17,321	15,930	19,691	18,416	15,954	14,356	11,439	10,458
	(指数)	(100)	(115)	(111)	(102)	(126)	(118)	(102)	(92)	(73)	(67)

の人間関係の希薄さなどに起因する「心の成長の不健全な群」でも名付けられる複合的な諸問題があり、いら立ちやムカツキ、抑圧感や不安感を含め、しかも自分が何でイライラするのか、なぜ不安なのかをうまく捉えているのではないだろうか。本来、加齢とともに現実に適合

4領域の結び付きが心の教育に求められる

し、自分の在り方を徐々に見つけられるはずが、今の時代はそれが難しくなっているようです。大人たちは子どもの内面の分りにくさを「心の闇」という一見、便利な言葉で片付けようとしています。しかし、必要なのはその闇を照らし出すことです。親や教員は、子どもの心に何が鬱積しているのか、何に対して不安なのか、子どもとどう向き合ったらいいのかを明らかにし、子どもが確実に成長を遂げられるよう具体的な教育の取り組み、「心の教育」を実行することが大事です。

子どもたちの多くは、身の回りの社会を手探りし、自らが成長する上で大切な役割を果たす友人や仲間との多様なかかわりが持つ豊かな可能性を生かせずに一人で思い悩んでいます。そのため、自分の将来の生き方や目標について見通しや希望が持てず、何をめざして生きていきたいのか分からないでいます。親が子どもの将来への不安を言

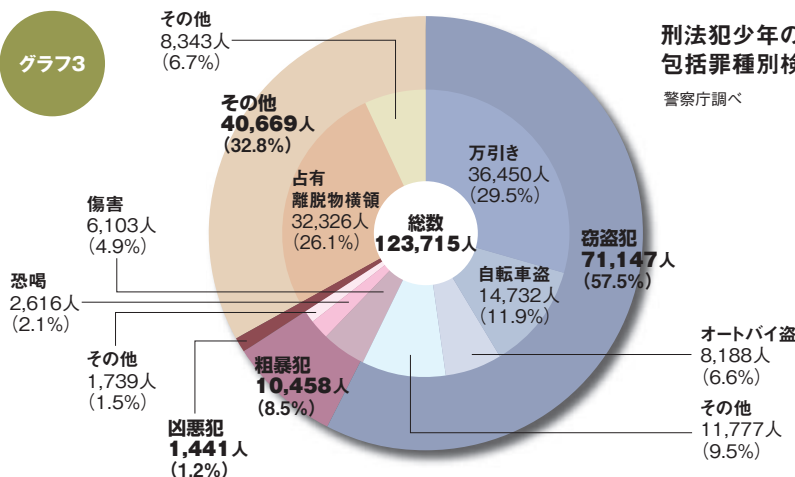
葉にすれば、子どもはさらに不安をかき立てられます。これでは何の解決も見出せません。学校の「心の教育」に求められる課題は、主に4領域が考えられます。第一は、他者と豊かにかかわる中で、自己形成を図るために必要な道徳性や市民性をはぐくむこと(道徳教育)。第二は、自分たちの前にある社会の現実と向き合い、そこで生きるために自分の在り方を仲間とともに探ること(キャリア教育)。第三は、子どもたちの心に寄り添って丁寧な声の聞くこと(生徒指導・教育相談)。第四は、そのような学習活動が安心して行える場を保障すること(学級経営)です。

これらの4領域が有機的に結び付き「心の教育」として総合され、さらに教科の学習活動と補完し合うことで、学校は子どもたちの心を育てる場としての役割を取り戻せるのではないのでしょうか。来春、兵庫教育大学が教育実践高度化専攻に開設する「心の教育実践コース」では、文字通り、心の教育の取り組みの担い手となる学校教員の育成をめざします。

グラフ3

刑法犯少年の包括罪種別検挙状況(平成17年)

警察庁調べ



の 報 告

「心の教育」に向けて

夜間定時制高校



子家庭がおよそ3分の1に上っていました。成育過程で、または不登校や中退を経験して、心に何らかの傷を負った生徒が増加している現状から、勤労生徒や学習機会のなかった成人生徒への学力保障だけで

なく、挫折を経験した生徒たちの心理的安定を確保するような「心の居場所」を提供することも定時制高校の重要な役割となつてきています。一方、怠学や非行傾向の強い入学者もおり、個別指導とのバランスを取りながら規範意識や社会性を高めるための集団的な生徒指導をいかに展開するかということも大きな課題です。不安やいら立ちの中で揺れ動く生徒の心を受け止めて自己実現へ向けた支援を行うには、単に教科の知識を教えるだけでなく、ホームルーム活動や学校行事、生徒指導、進路指導などを通じて「心の安定と成長」をめざす取り組みが必要となります。常に生徒の身近な存在として心を理解し、さまざまな場面で丁寧なかかわりを進めていく「心の教育」の担い手としての教員が、定時制高校に限らず、すべての学校において今求められているのではないのでしょうか。

あら い はじめ **新井 肇** (基礎教育学系教授)



不登校経験者や 全日制中退者が増加

現在の夜間定時制高校は、かつて主流だった昼働いて夜学ぶ「苦学生」が減り、不登校経験者や全日制高校中退者が増加するなど、生徒の多様化が進んでいます。私が今年3月まで勤務していた定時制高校も全校生のうち小・中・高いずれかで不登校を経験した者が70%近くを占めていました。また、家庭環境も厳しく

不安やいら立ちの中で揺れ動く生徒の心を受け止めて自己実現へ向けた支援を行うには、単に教科の知識を教えるだけでなく、ホームルーム活動や学校行事、生徒指導、進路指導などを通じて「心の安定と成長」をめざす取り組みが必要となります。常に生徒の身近な存在として心を理解し、さまざまな場面で丁寧なかかわりを進めていく「心の教育」の担い手としての教員が、定時制高校に限らず、すべての学校において今求められているのではないのでしょうか。

不登校支援に新たな取り組み ～「NANAつくす」の挑戦～



明石不登校から考える会の「明石公園子ども村であそぼうかい」に参加し、子どもたちと遊ぶ加藤さん(中央)と岩崎さん(右から2人目)

「心の教育」の中でも最も重要な課題の一つに挙げられるのが、不登校の児童生徒への支援です。不登校児童生徒は全国で12万人を超え、兵庫県内にもNPOやフリースクール、親の会といった不登校支援施設(団体)が増えてきました。しかし、理念や方針が異なることもあり、支援施設同士で連携が十分にとれているとはいえません。また、学校現場では、教員に支援施設に関する情報が乏しく、不登校

の児童生徒への対応に選択肢が限られているのが現状です。



NANAつくす活動室には不登校支援施設からのボランティア募集を掲示。専属のコーディネーターが間に入り、支援施設と学生のマッチングを図ります

昨年、兵庫教育大学では、学生参加による不登校支援ネットワーク「NANAつくす」を立ち上げました。NANAつくすのコーディネーターが学生を不登校支援施設などにボランティアスタッフとして派遣。学生は不登校の子どもたちとのふれあいを通じて学んだことや支援施設の活動内容などをレポートにまとめ、学内外に広く発信します。それによって、支援施設同士、支援施設と学校の連携を図っていきます。また、教員を志す学生には、支援施設での体験は実践的な資質を磨く絶

親や教師に求められること

カウンセリング

相手を理解し 対話することが大切

教育相談室でカウンセラーをしていたころ、高校生のA君が両親とともに来ました。

当時、A君は家の中で暴れていました。どうしても腹立たしい気持ちが消えず、物に当たってしまうと両親は困り果てていました。

A君は全身に怒りが表れているような雰囲気、「ムシヤクシヤする気持ちが消えない」と私に言いました。周囲の人たちはA君に「何とかできないか」と言い続けてきましたが、A君も「自分も何とかしたいが、どうにもできない」ともがいていました。

私はA君の話を1時間ほど聞きました。私には、彼ぐらいの年ごろには自分でもいかんともしたい気持ちが生まれることをよく理解できました。そしてそれを暴れるという方法でしか吐き出せないでいる自身に対する「はがゆさ」のようなものも、

自分の思いを聞いてもらった



ことで、A君は「もういい」という気持ちになったそうです。これからもカウンセリングを続ける必要があるかと尋ねると、「その必要はない」と返ってきました。「自分がどんな思いでいたのかを分かってくれる人がいただけでいい」。

私はあまりにもあっさりとした終結に少し驚きつつも、A君の穏やかな表情に安んじました。分かってもらったこと、話せることが青少年への援助にいかに大切であるかということを確認した次第です。



NANAつくすの活動に参加できない学生も多数出席する“しゃべり場”。夜遅くまで議論が続くことも

好の機会となります。

スタートから約1年。学生ボランティアを要請する支援施設は確実に増えており、これまで約30の支援施設などに学生を派遣してきました。

「不登校の子どもを抱える親の集まりに出席した時、ほとんどの親が学校の先生に良いイメージを持っていないことがショックでした。自分は信頼される教師になりたいと、活動を続ける決心をしました」と語るのは加藤藤麻衣さん(幼児教育系コース1年)。

加藤さんと同じく支援施設に積極的に向いている岩崎利紀さん(学校教育系コース1年)は「不登校の子どもと初めて会う前は不安だった」と振り返ります。「でも、実際はごく普通の子どもたちばかり。ほっとした反面、どんな子でも不登校になる危険性があるのだと、この問題の難しさを痛感しました」

学生のNANAつくすへの関心は高



今年7月に開かれたネットワーク会議。不登校支援施設の関係者や学生、学校教員などが参加し、意見や情報を交換しました

く、約250人がボランティアに登録しています。しかし、授業やクラブで忙しく、活動に時間を割けない学生も多数います。そんな学生たちには、学内で定期的開催する「しゃべり場」は貴重な時間。支援施設のスタッフなども招き、NANAつくすに参加している学生が活動報告したり、学生同士で意見交換したりします。

「活動報告は大変参考になる」と話すのは、野球部のマネージャーを務める南里奈さん(言語系コース1年)。「先生は自分のクラスに不登校の子がいれば、学校に来させることを第一に考えます。でも、支援施設の知識を持つことで、その子により適した対応ができるのではないかと思います」

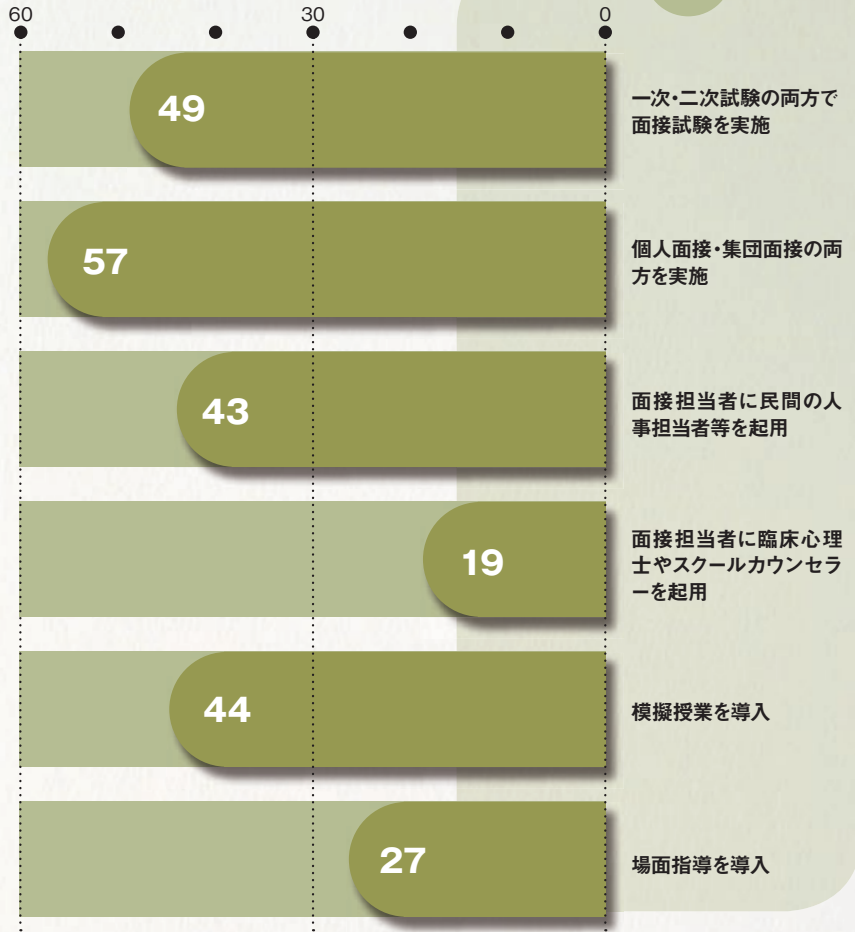
21世紀の「心の教育」の担い手をめざして、学生たちのNANAつくすの活動の輪は広がります。

きつかわよしのり
吉川芳則

社会・言語教育学系教授



面接試験等における改善（平成17年度）
調査対象：都道府県+指定都市（全60県市）



**多面的な人物評価に基づく採用
— 教員採用試験の改善状況の調査から —**

現在、都道府県と指定都市（以下県市）では、教員を採用する際、教員としてふさわしい資質能力を備えた優秀な人材を確実に確保す

るため、選考方法の多様化、選考尺度の多元化などについて積極的な取り組みを進めています。「グラフ」は、全国各県市が実施した

採用選考での面接試験等における改善状況を示したものです（文部科学省調査。平成17年度採用分）。面接を複数回にし、個人、集団と形態を変えて実施することで、受験者の資質能力をよりの確に把握しようとしていることがうかがえます。また、面接担当者については、教育委員会事務局職員や指導主事、現職の校長に加えて、民間の人事担当者や臨床心理士、スクールカウンセラーを起用している県市が多数あります。そのほか、保護者や医師、弁護士などを起用するケースもあり、家庭、地域、異業種の視点による人物評価への取り組みも進められています。模擬授業については、44県市で実施されています。各教科の授業を行わせるのが主流ですが、学級活動などを課題とするケースもあります。また近年は、場面指導を導入する県市も増えてきています。学校生活でのさまざまな場面を想定した指導、特定状況を指定した上で児童生徒や保護者への対応な

どを行わせることなどが主な内容になっており、現場での実践力を見極めようとしていることがわかります。

これらに加え、作文・論文試験、適性試験を実施したり、クラブ活動やボランティア活動歴、教育実習や社会体験などを評価したりするケースも見られます。

こうした採用選考におけるさまざまな取り組みは、「教員の専門性はもとより、チャレンジ精神が旺盛で高い倫理観と使命感を有する優秀な教員の確保を図るため、教員採用の工夫・改善を図り、人物重視の採用に努める」（18年度兵庫県教育委員会当初予算の概要）という方針に基づくものが大方の傾向であると言えます。

求められている資質や能力は、付け焼き刃で身に付けられるものではありません。その意味においても、学生の皆さんが充実した学校生活を送ることを大きく期待します。

Q&A



アドバイザー

ひろ おか とおる
廣岡 徹
基礎教育学系教授

Q 科学技術や社会の急速な変化に伴い、教員としての専門性の維持向上を図るため、「教員免許の更新制」の導入が検討されています。更新のための厳しい研修を課すことで、教員一人一人の力量の維持向上につながるのでしょうか。



A 学校はさまざまな課題に呻吟しつづ、日々の教育活動の充実にまい進しています。また、社会や保護者のニーズも多様化し、その対応にも追われています。一方で、教職員の、その職責をおとしめるような事件や事故も後を絶たず、指導力不足の教員の存在も相まって、教育への信頼が損なわれている状況がないわけではありません。学校が社会や保護者の期待に応えきれない状況にあるのも、また事実でしょう。

「だからこそ、免許の更新制が必要だ」という主張もあれば、「免許の更新制は教職にはなじまない」という意見もあり

ます。とは言え、どちらにしろ、その捉え方はやはり短絡に過ぎると思えてなりません。

本来、教員は「いつの時代にあっても、教員としての使命感や人間愛、社会人としての良識教科やその他の教育活動における専門性を磨き、高めるために、絶えず研修・研鑽を積む」ことが求められています。教員の不断の職能成長は、教員であり続ける限り、自明のことと言えます。となれば、免許の更新制は、その延長で捉えられるべきではないでしょうか。

日々の教育活動に追われ、自己研修のゆとりを持ちにくい現実にあつて、免許更新のための研修を自己のリニューアル、リフレッシュの機会として捉えることこそ、必要なのではないでしょうか。あるいは、専門性のキャリアアップのチャンスとも言えます。

専門性により深みを加え、心身ともにフレッシュアップした教員のさっそうとした姿は、きっと子どもたちの心をつかんで離さないことでしょう。



Books

教員の著書紹介

『“人権”をめぐる 論点・争点と授業づくり』

(明治図書・平成18年刊)

著者：米田豊(社会・言語教育学系教授)ほか

本書は、人権という文脈から従来の社会科授業を捉え直す論点・争点について共著したものである。

1章では従来の授業が観念的な理解に陥った経緯を指摘し、2章では人権問題についての教材化の理論的な根拠を提示。さらに3章では、教育現場の教員が人権を視点にした社会科授業づくりの実際を提案している。

拙稿「社会認識教育としての人権教育」では、「知識を全否定してよいか」「体験だけで差別を見抜く目が育つか」「感性だけで差別を見抜く目が育つか」を論点・争点に、社会科教育における人権教育の在り方を提案した。

『情動知能を育む教育』

「人間発達科」の試み

(ナカニシヤ出版・平成18年刊)

編者：松村京子(臨床・健康教育学系教授、附属小学校長)

ハーバード大学のガードナー教授は脳科学の知見に基づき、人間の知能を多元的に捉える「多重知能」理論を提唱している。多重知能のうち、自分自身を内省する知能と、適切な対人関係を築く知能が「情動知能」である。附属小学校では、文科省の研究開発学校として「人間発達科」を設定し、「情動知能」をはぐくむ教育を試みている。小学校6年間は子ども自身が発達、養護される側から養護する側へと、対人関係が転換する場でもある。人間発達科は、子どもに自身の成長・発達について理解を深めさせ、人とかかわる楽しさを実感させ、内省性や社会性、養護性を育てることを目標としている。本書は、「情動知能」をはぐくまなければならない子どもを取り巻く状況と、その教育実践をまとめたものである。

※教員の著書は附属図書館で閲覧できます。詳しくは学術情報課 ☎0795-44-2062へお問い合わせください。

◆執筆者 加藤信博
 大学院修士課程
 生活・健康系コース1年

ものづくりも研究も 「楽しむこと」が一番!

深夜のキャンパス。自然、生活健康棟の一室から、キーボードをたたく音やサウンドペーパーで何かを磨くかすれた音が聞こえてきます。真つ暗な廊下にははんだのにおいが漂い、人影が行き来します。こんな怪奇なことが毎夜のように繰り返されるのが、111号室「技術・情報教育研究室(通称技教研)」です。

と、言うのは冗談ですが、帰宅することすら忘れてしまうほど熱中できるのが私たちのゼミです。技教研は松浦正史教授、森山潤助教授の指導の下、博士

課程2人、修士課程2年生2人、同1年生3人が日夜、研究(?)に取り組んでいます。ゼミ生の出身地は兵庫、大阪、滋賀、長野から遠くはイランまでバラエティーに富んでいます。また、その経歴も、中学や高校の現職教

員、教育委員会の指導主事、社会人経験者などさまざま。ある意味、同じような背景を持つ人が2人といない「個性派ぞろい」を自負するところです。

技教研では主に、中学校技術科や高校工業科、情報科などを研究の対象に、ものづくりや情報教育について、生徒の認知・思考・情意の分析に基づく授業改善の方策を研究しています。個別ゼミとゼミ発表を組み合わせた課題研究では、論文作成に向けて真剣な議論が時間を忘れて続けられます。さらに、実習棟

Watching **ゼミ講座**




(^{まつ} ^{うら} ^{まさ} ^し **松浦正史**) **ゼミ**
^{もり} ^{やま} **森山潤**
 自然・生活教育学系

での金属加工や木材加工などのものづくり、UNIXサーバーを使ったシステム構築など、技術科や工業科、情報科などの教員になった時にすぐに役立つ実践的なスキルを身に付けることができます。教材研究というよりも「楽しんでいられるうちに自然とできるようになっていく」という感覚です。

また、私たちの研究室では常に実践の場に身を置くことができます。一般市民を対象とした公開講座、現職教員を対象とした研究会、兵庫県立教育研修所で開かれるサイエンスショー、

附属中学校での選択教科の指導、スクールパートナーシップによる小学校での「出前授業」などを通して、小学生から大人までさまざまな方と出会うことができます。特にストレート院生にとっ

て、これらの機会にはミニ教育実習のようなものであり、大変重要なものだと感じています。

松浦教授いわく「技術の先生がものづくりを楽しまなくてどうする!」。森山助教授いわく「修



サイエンスショーでPICロボットのプログラミングを説明する加藤



松浦教授はSPP事業で小学生に「Jリーグロボット」を解説

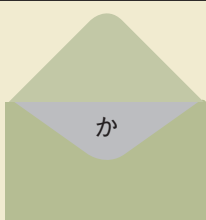


附属中学校で2足歩行ロボットの「出前授業」をする森山助教授



間宮寿樹さん(修士課程2年)はサイエンスショーで鑄造によるものづくりを指導しました

了した時から実践的研究者としての人生が始まる!」。二人の期待に応えるには、ものづくりも研究も、とにかく「楽しむこと」が一番大切だとゼミ生一同、感じています。



いけ おしょうこ
池尾尚子さん

西東京市立保谷第二小学校教諭

淡路市出身。平成15年、学校教育学部社会系コースを卒業し、西東京市立保谷第二小学校に着任。今年度は6年生を担当。

↓ 飼育活動を通して命の尊さを学ぶ

ドキドキ、ワクワク、キラキラ…。子どもたちの輝きを見つめて、はや3年が過ぎました。小学校教諭になるため上京し、最初は不安もありましたが、やりがいのある仕事で充実した毎日を送っています。

私が勤務する保谷第二小学校では、飼育活動を4年生の総合的な学習の教育課程として位置付け、力を入れています。私は一昨年、昨年と4年生の担任としてかわり、たくさんのドラマに立ち会いました。最初は多くの子どもがおいで世話を嫌がりますが、次第に動物に愛情を持って一生懸命に世話をするようになり、そんな子どもたちの姿に心を打たれます。

—動物の体温や脈を感じて感動した。卵からチャボのひながかえり、うれしい。ウサギのけがが心配で泣きながら話し合った。チャボが亡くなり、その冷たさから命の重みを感じた—。子どもたちと一緒に感じ、考えることを繰り返しました。子どもたちは命の尊さを学び、生き物に、もちろん人に対しても思いやりを持ってかわらうとする気持ちを得ることができました。そんな姿を見ることで、私も人間として成長できました。

これからもいろんな子どもたちに出会う中で、たくさんの輝きを見られることが楽しみです。



動物とのふれあいが思いやりや優しさをはぐくみます



なか おみずき
中尾瑞紀さん

北京日本人学校教諭

島根県出身。平成2年に学校教育学部社会系コースを卒業。島根県内の公立小学校教諭を経て、11年、大学院修士課程社会系コースに進み、13年に修了。17年から北京日本人学校に勤務。

希望小学の子どもたちは目を輝かせて授業を受けます



↓ 希望小学で学ぶことの楽しさを再確認

北京日本人学校に勤務して2年目を迎え、北京での生活にも慣れてきたところです。北京日本人学校は北京市北東部、首都空港の近くにあり、児童生徒数は約650人、職員はガードマンを含め約70人を数えます。警備は厳重ですが、校内にいと日本の学校と変わらない学校生活です。昨年度に続いて6年生を担当しており、明るく素直で賢い子どもたちとともに協力的な保護者の方々のおかげで、充実した毎日を送っています。

教職員は夏休みになると“希望小学”にボランティアに出掛けます。希望小学とは、希望工程という学校に行けない貧困地区の子どもたちを支援するプロジェクトでつくられた学校です。北京日本人学校の児童生徒会ではリサイクル委員会を中心にペットボトルや空き缶を回収したり、文房具を寄付したりしています。

教職員は3チームに分かれ、各地の希望小学で授業をします。簡単な日本語の授業をはじめ、中国語での英会話、音楽、体育、理科、社会、図工などの授業を苦勞しながら行っています。私の問い掛けに目を輝かせながら反応する子どもたちの姿に、教師としての喜びを感じるとともに、学ぶことの本質的な楽しさ、面白さを再確認します。担任している子どもたちにそれができているのか、考えさせられます。



大学院修士課程
総合学習系コース1年
マリム・ベヌーディさん

イラン・テヘラン出身の留学生。母国では、数学とコンピューターを教えるベテランの高校教員。昨年10月に研究生として来日し、今年4月、大学院に入学。マルチメディア教材、デジタルコンテンツなどを研究している。7月のコンサートには友人のジャリム・ムサビさんも同時通訳として出演した。

7月14日の夕刻、兵庫教育大学講堂で国際交流コンサート「イランの歌、文化、四季」が開かれ、イラン人留学生、マリム・ベヌーディさんの「歌やダンスを通してイランの文化を紹介し、イランと日本の懸け橋になりたい」という強い希望により、小野ロータリークラブや加東市国際交流協会設立準備委員会など、地域の協力を得て開催にこぎつけました。子どもからお年寄りまで学内外の100人以上が集まり、客席を埋め尽くしました。

美しい民族衣装を身にまとったベヌーディさんのイラン語でのあいさつからスタート。続いて、森田宣子さん（ピアノ）、河野純さん（ジャンベ）、是永崇さん（ギター）ら友人たちの演奏に合わせて、ベヌーディさんの伸びやかな歌声が会場に響き渡りました。さらに、よさこい部有志によるイランのダンスのパフォーマンスも。

このコンサートはすべてが手作り。ベヌーディさん自ら生地から衣装を仕立て、ステージを飾った古代イランの帝王ダレイオスの像や民族衣装を着た女性の像もベヌーディさんと友人が発泡スチロールを彫刻したものです。楽譜も初めからそろっていたわけではなく、本当にゼロからのスタートだったそうです。

コンサートの終盤には、浴衣に着替え、日本語歌詞の『ねがい』も歌いました。この曲

歌やダンスを通して イランの文化を日本に広めたい



デジタル加工に精通しているベヌーディさん。コンサートの時に撮った写真をコラージュしてポスター風に

は、広島の中学生によって作られ、iEARNの国際交流プロジェクトの一環として全世界で歌われています。ベヌーディさんが世界平和の大切さを訴えた後、出演者全員が両手を振りながら歌い、最後はステージの上でみんなが手をつなぎ、大きな輪が完成。感動のステージは幕を閉じました。

「人生は美しいものです。どうか、あなたの周りにいるさまざまな人々と友達になってください。それがあなたの人生をより豊かに

するはずですよ」と語ったベヌーディさん。より多くの日本人がイランの文化に興味を持ち、国際理解に目を向けることを願っています。

※iEARN (アイアーン)とは

世界115国と地域の2万校約100万人の子どもたちが参加するNPO。インターネットなどのICT（情報通信技術）を使い、国際交流を通して理解を深めている世界最大の国際教育ネットワークです。世界中の教育者や子どもたちが協力して「国際協働プロジェクト」の推進を目的として、学校を中心に活動しています。

創部2年目の今年は
皆さまに喜ばれるお茶会を

ク

部長

大学院修士課程社会系コース2年
うえの あきひろ
植野晃浩さん

ラ

昨年7月に創部した茶道部は部員31人。毎週月曜に活動しています。茶道部の一番の特徴といえば、部員の年齢層が幅広いこと。学部1年生から現職教員まで在籍しています。茶道という敷居が高いイメージがあると思いますが、入部後に茶道を始めた部員がほとんどで、裏千家淡交会明石支部の渡部宗香先生に指導していただいています。

ブ

奮

おけいこでは今までになかった発見ばかりです。作法を身に付けることは難しいことですが、その一つ一つに意味があります。人に対する心配りが一番の基本だとよく教えられます。茶道を始めてからは、季節の移ろいに敏感になりました。

戦

昨年は学生支援課にもご協力いただき、学園祭と卒業式、入学式でのお呈

記



今春の入学式で来場者をもてなしました



31人の部員をまとめる植野さん

茶が主な行事でした。なにしろ初めて尽くしで、活動は手探り状態でした。今春には創部以来、私たちを引っ張ってくださった先輩方が卒業されましたが、新しい部員も入りました。2年目となる今年は、昨年の経験を生かして、お客さまに喜ばれる茶会を開きたいと思っています。



Congratulations

おめでとう

出会いと助け合いを大切に いつの日か世界の舞台へ



日本国際ドラゴンボート選手権大会
6位入賞
大学院修士課程
生活・健康系コース3年
(長期履修生)
おちゆうこう
越智祐光さん
(ドラゴンボート部代表)

太鼓と舵取り、漕手は左右に10人ずつ。ドラゴンボートとは総勢22人が龍頭、龍尾の付いた船に乗り込み、速さを競う競技です。個人技よりも漕ぐタイミングを合わせるチームワークが重要とされます。ドラゴンボート部は昨年、私が中心になって創部し、規約に「院生と学部生が共同して活動し、学外の人と混成しても良い」と盛り込みました。それは、私には「人との出会いが人を大きく成長させる」という理念があり、多くの人と出会い、助け合うことで、人として大きく成長したいという願いがあるからです。

私以外の部員は初心者ばかりでしたが、7月2日の「相生ドラゴンボート選手権大会(日本代表第1次選考会)」での3位入賞に続き、その2週間後の「日本国際ドラゴンボート選手権大会」でも6位に入賞しました。好成績を残せたのは、部員がドラゴンボート関係者の温かさに触れ、他チームとの交流を通して大きく成長した結果であり、



抜群のチームワークでさらに上位をめざします

私の地元の相生市やペーロンチーム「南風」の方々の大きな支えがあったからだと思います。

今後は、東条湖でドラゴンボートの大会を開催し、さまざまな人々と交流を深める場をつくることを夢見ながら、いつの日か兵庫教育大学から日本代表チームとして世界へ飛び出していくために、学校や地域の方々との出会いを大切にしていきたいと考えています。

キャンパス
Campus



うのひろゆき
宇野宏幸

臨床・健康教育学系助教授

2教委、養護学校と「特別支援教育推進協定」を締結 軽度発達障害児の教育支援に大学院生を派遣

兵 庫教育大学は今年5月、川西市教育委員会、猪名川町教育委員会との間で「特別支援教育の推進に関する連携協定」を締結しました。これは、大学院修士課程特別支援教育コーディネーターコースの院生(すべて現職教員)の実地修練の場として、

川西市と猪名川町の公立学校を活用させていただくと同時に、地域の教育力向上に貢献することを目的としています。

この連携の特徴は、大学院の授業と学校での実践活動が協働していることです。川西養護学校の橋本正巳教諭には、客員教授として本コースの演習や実習

象に実習を行います。この際、発達検査だけでなく、保護者や担任教師からの聞き取り、授業参観、学



協定の調印式にて。左から、植野浩治川西養護学校長、橋本義和猪名川町教育長、宮崎秀紀本学理事、村木修川西市教育長

機能自閉症(アスペルガー障害)児への支援に関するニーズは、大きな高まりを見えています。この連携は、地

いて院生は担当教員のスーパーバイズを受けて、次の準備をしますが、今後はテレビ会議システムを使用して学校関係者との検討会議も開催していきたいと考えています。

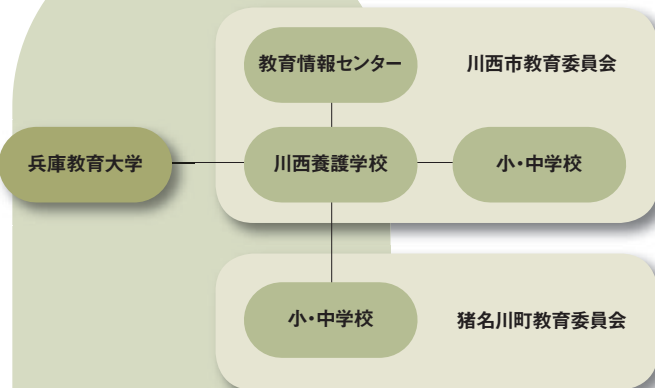
院生派遣についての打ち合わせ

を担当していただいています。例えば、前期に開講される「個別支援アセスメント演習」では、知能検査や発達検査、指導計画の考え方についての講義、実施方法の実習を経て、学校に在籍する特別な教育的ニーズを持つ子どもを対

ここで結果は「個別支援ケース実習」へと引き継がれ、授業内での支援や個別の指導へと進展する予定です。昨年度から先行的に実施している宇野研究室と川西養護学校との連携では、すでに院生が同養護学校や公立学校で学習障害(LD)児や注意欠陥多動性障害(ADHD)児に個別の学習指導に当たっています。近年、幼稚園から高校に至るまで、LD児やADHD児、高

域の学校支援という側面も持つており、単なる人的な支援にとどまらないように注意しなければなりません。すでに特別支援教育の分野で経験のある院生が支援に当たることで、受け入れ校に相当な刺激をもたらす効果もあり、院生を通して大学の研究成果を活用することも可能でしょう。実施中のケースでは、指導の様子を担当教員に参観してもらう取り組みも行っています。現在は、指導の結果などに

◎特別支援教育コーディネーターコースとの連携図



“読書の秋”。附属図書館で とっておきの一冊との出会いを

「活字離れ」と言われて久しいですが、
附属図書館では学内はもちろん、地域においても活字文化を継承し、
発展させたいという考えから、新たな取り組みがスタートしました。

◆Bookギャラリー

“1冊の本との出会い…それは一生の宝物”

そうした出会いの場として、昨年12月から本の展示企画「Bookギャラリー」を始めました。年2回テーマを設定し、図書館員が蔵書からイチオシ本や隠れた名作などを選んで展示します。テーマの解説を掲示したり、本の一口解説を置いたり、手に取りたくなるような演出を心掛けています。過去2回のテーマは、第1回「梶田観一の頭脳を読む」、第2回「子どもをく^み視る」でした。第1回は、梶田学長の特別講演会を開催し、地域の人々も多数来館されました。

現在、第3回を構想中で、特別講演会も開催する予定です。詳細が決まればホームページなどで告知します。なお、Bookギャラリー、講演会とも一般の人も無料です。



◆図書館の日曜・祝日開館

学生の利便を図りながら、一般の人の学習研究にも役立ててもらおうと、今年度から日曜・祝日も開館しています。小・中・高校の教育実践に関する研究報告書や教育分野の幅広い資料、各分野の専門書など、公共図書館にはない資料もそろっています。一般の人の当日限りの利用は無料です。本や資料の貸し出しを希望される人には「図書館利用証」を発行します（運転免許証など住所が確認できるものとカード発行料500円が必要です）。

◇図書館の開館時間

月～金曜…………… 8:30～22:00

土曜…………… 9:00～17:00

日曜・祝日…………… 13:00～17:00

※ただし、夏季や冬季など大学の休業期、全学的な停電やネットワーク停止時は除きます。詳しい開館スケジュールは電話またはホームページで確認してください。

☎ 学術情報チーム・サービス担当 ☎0795・44・2062

<http://www.lib.hyogo-u.ac.jp>



学校教育に関する相談に応じます 「学校カウンセリングルーム（うれしの教育相談室）」

「不登校」「いじめ」「非行」「進路・就学」「学習の問題」などに悩んでいる園児、児童生徒とその保護者、教員が対象。兵庫教育大学の学校カウンセリング担当教員（臨床心理士、認定カウンセラー）と大学院生（現職教員を含む）がチームを組んで相談に応じます。カウンセリングや遊戯療法、箱庭療法などを通して支援します。

▶主な相談内容

「不登校」「いじめ」「非行」「進路・就学」「学習の問題」「教師のメンタルヘルス」など

▶利用料

無料（10月1日現在）

▶開設場所

教育・言語・社会棟5階512号室

▶利用方法

予約制。電話かファクスで事前に申し込んでください。☎ ☎0795・44・1100

※不在の場合は、留守番電話に氏名と電話番号を入れるかファクスを送信してください。即返答します。

◎平成19年度学生募集

☆学校教育研究科(修士課程)
〈後期選抜試験〉

◎学生募集人員(88人)

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
学校心理学コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	5人
臨床心理学コース	夜間クラス	15人
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース		2人
特別支援教育コーディネーターコース		2人
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人
▶学校指導職専攻		
		13人
▶教育実践高度化専攻		
授業実践リーダーコース	昼間クラス	17人
	夜間クラス	若干人
心の教育実践コース	昼間クラス	6人
	夜間クラス	若干人
小学校教員養成特別コース		5人

◎出願期間 10月6日(金)～13日(金)(消印有効)

◎試験日 11月11日(土)(筆記、口述試験とも)

◎合格者の発表 12月1日(金)10:00

※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは兵庫教育大学で、夜間クラスは主に大学院神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します。

※言語系コースには国語分野と英語分野、自然系コースには数学分野と理科分野、芸術系コースには音

楽分野と美術分野があります。

☎入試課 ☎0795-44-2067

◎平成19年度園児・児童・生徒募集

☆附属幼稚園

◎募集人員

3年保育(3歳児)40人

2年保育(4歳児)20人

◎出願期間 10月23日(金)～27日(金)

◎選考結果発表および抽選日 11月11日(土)

☎附属小学校事務室 ☎0795-40-2218

☆附属小学校

◎公示日 11月1日(金)

☎附属小学校事務室 ☎0795-40-2218

☆附属中学校

◎公示日 11月1日(金)

☎附属中学校事務室 ☎0795-40-2224

◎附属幼稚園研究発表会

研究テーマ「『幼児の生活を充実させる保育環境を考える』—仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて—」

◎内容

研究協議会、講演「これからの幼児教育を語る」(講師:梶田観一学長)

◎開催日 11月9日(金)

◎時間 9:00～16:00

◎場所 附属幼稚園

☎附属幼稚園 ☎0795-40-2227

☎0795-40-2228

kinder@hyogo-u.ac.jp

<http://www.school.hyogo-u.ac.jp/kinder/>

◎附属中学校研究発表会

研究テーマ「『確かな学力』が育つ学習指導の研究」—関心・意欲・態度の評価のあり方を求めて—

◎内容

公開授業、講演「教育改革の進展と学校教育の課題」(講師:梶田観一学長)

◎開催日 11月17日(金)

◎場所 附属中学校

☎附属中学校 ☎0795-40-2222

☎0795-40-2225

<http://www.school.hyogo-u.ac.jp/middle/middle.html>

◎附属小学校研究発表会

研究主題「『学ぶこと』と教えることの共鳴(レゾナンス)(2年次)」

◎内容

1日目…全体会、公開授業、分科会、講演

2日目…全体会、公開授業、分科会

◎開催日 19年2月1日(金)・2日(土)

◎場所 附属小学校

☎附属小学校 ☎0795-40-2216

☎0795-40-2219

element@hyogo-u.ac.jp

<http://www.school.hyogo-u.ac.jp/element/index.html>

◎第25回大学祭「嬉望祭」

今年のテーマは「No Border」。学部生が中心となり、院生や外国人留学生、教職員、他大学、そして地域の人々との「交流の輪を広げたい」という願いを込めて開催します。

◎開催日 11月18日(土)、19日(日)

◎場所 兵庫教育大学

☎学生支援課 ☎0795-44-2050

☎0795-44-2049

office-gakusei-k@hyogo-u.ac.jp

◎アジア教育シンポジウム

「ボーダレス時代の初等中等教育—アジア相互理解のための教育プログラムを—」

◎内容

韓国、中国、ベトナムから研究者を招き、国際理解教育に関する現状と課題を話し合います。入場無料(要申込)。

◎開催日時 10月14日(金)9:00～17:00

15日(土)9:30～17:00

◎場所 神戸国際会議場(神戸市中央区)

◎申込方法

専用サイト(http://www.office.hyogo-u.ac.jp/res/asia_sympo/top.html)から「参加登録申込書様式」をダウンロードし、必要事項を記入して、ファクスで送信してください。また、Eメールに必要事項を記入して申し込むこともできます。

☎研究支援課 ☎0795-44-2258

☎0795-44-2302

office-kenkyu-t@hyogo-u.ac.jp

☎=問い合わせ先 ☎=申し込み先

編 集 後 記

●『教育子午線』の編集に携わって2年目。内容、レイアウトともにとてもいいなと思えるようになりました。自画自賛と言われても、本当にそう思います。誌面を彩る先生方の活動や研究の様子、学生の活躍など、人材豊かな大学のイメージが伝わってくるではありませんか!今後、誌面の一層の充実を図っていくためには皆様方の情報提供が欠かせません。よろしくお願いします。(は)

●毎号、情報(ネタ)収集の難しさを痛感すると同時に、「教育最前線」などの取材を進めていくと、知らなかった世界がパッと開けることや新たな驚きがいっぱいあります。あなたの周りにもありませんか?知っているようで、知らない大学のこと。ネタの種で結構です。教えてください。「教育子午線」のバックナンバーは本学ウェブサイトでご覧いただけます。(に)

◎ご意見・ご感想を寄せられた方にオリジナルステッカーをプレゼント!

『教育子午線』では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。はがきかメールで、住所、氏名、年齢、①『教育子午線』第12号の感想、②取り上げてほしい特集内容を記入してお送りください。ご意見・ご感想を寄せられた方にはオリジナルステッカーを進呈します。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務室

☎0795-44-2334 ☎0795-44-2009 E-mail:office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

教育子午線
Kyoiku-Shigosen

第12号 2006年10月発行

発行/兵庫教育大学 学芸部

<http://www.hyogo-u.ac.jp>

編集協力/阪神新聞マーケティングセンター

